

令和元年度第3回図書館協議会 議事録

日時 令和2年2月20日(木) 13:30～15:00
場所 鹿児島市立図書館 AVホール
出席者 委員6名、事務局6名

【議事概要】

- 1 開会
- 2 図書館長あいさつ
- 3 議事(1)～(4)

(1) 令和元年度図書館の利用状況について

(会長)

令和元年度図書館の利用状況について意見はないか

全体が増えるのが望ましいが、中央館が減って公民館図書室に利用者が増えている。補完するような形になっているのでよいのではないかと思う。

(全員)

特に意見なし。

(2) アンケート調査結果について

(会長)

令和元年度アンケート調査結果について意見はないか。

(委員)

中央館だけのアンケートか。

(事務局)

市立図書館で実施したアンケートである。

ただ、自由意見については、公民館も含めた意見もある。

(委員)

アンケートをみると、図書館利用頻度調査で少ない方に目をむけると、「ほぼ毎日利用する」が2.6%、利用時間帯調査では「終日」が3.2%である。市立図書館は予約なども多く行っており、いろいろな行事も行っている。

人生100年を見据えた図書館資料の活用を考えていってはどうか。従来のように貸出数を重視するのではなく、それぞれの階層に公共図書館の使い方を案内する。大学は大学でのオリエンテーションがあり、中学、高校生は、学校でそれぞれの学年で課題解決に取り組む。例えば、高校生は2年生になったらデータベースに取り組む、3年生は進学に向けての調査をするなど。

市民講座を増やすのではなく、利用者がライブラリースキル(図書館の活用スキル)を磨けるように、公共図書館の活用術を伝えていくのが大事だと思う。

(事務局)

当館は図書館の幅広いレファレンスツールの使い方の案内がまだうまくいっていないように思う。他の図書館では、ホームページなどに、オンラインデータベースを使えばこんなことができるといった案内を掲載しているところもあった。今後、いろいろな面で利用していただくように取り組んでいきたい。

(会長)

志学館大学とかは鹿児島大学などとは連携しているようだが、県立図書館との連携はされているか。

(事務局)

県立図書館とは様々な情報共有をしているところである。

(会長)

「毎日利用する」が2.6%、利用時間帯調査では「終日」で3.2%の利用者がいることは固定層がいることであり、大事にしていく必要がある。

また、今後も県や大学との連携を行って、図書館の活用法を広めていく方向で取り組んでいけばいいと思う。

(委員)

テレビのバラエティー番組で、袖ヶ浦市の小学生が桃太郎の研究をして、「図書館を使った調べる学習コンクール」で文部大臣賞を取ったことが紹介されていた。学校図書館と公立図書館の司書さんの協力があったということだった。図書館の充実と活用がうまくいった例だといえる。

(3) 前回の指摘事項の報告について

(会長)

前回の指摘事項の報告について何か意見があるか

(全員)

特に意見なし

(4) まちなか図書館（仮称）基本計画について

(委員)

まちなか図書館をあの館のようにしたいとか目標があるか

(事務局)

あの館のようにというのはないが、色々な取り組みをしている最近の図書館などもあり、参考にしたい部分は取り入れていきたい。

(委員)

まちなか図書館のターゲット層がまず若者からとなっているが、幅広い年代も取り入れる方向で検討しているようなので、70代60代の人も、あそこだったらいけるかなと思えるような図書館にしてほしい。

(委員)

座席数はどのぐらいか。

(事務局)

まだ確定していない。

(委員)

「学習・閲覧ゾーン」としているが、言葉が重々しく感じるので、従来の図書館イメージではなく、軽やかなイメージの図書館にしてほしい。

当初は利用者も多いと見込まれるので、座席は時間制限してもいいかもしれない。

また、まちなか図書館の分類はどうするのだろうと、みんな興味をもっている。

(会長)

若い人をターゲットにする計画であるが、若者の人口は減少傾向である。団塊の世代は、人口が多いのでそこを忘れずに利用者を見込む必要があるのではないかな。

まちなか図書館は空間も限られており、本の冊数も多くないと思うので、それを考慮して若い人が好む雑誌のリサーチも必要、若い人に詳しい人の意見をもらうなどして選書していくことも必要だと思う。

飲食コーナーなどの場所の設定の仕方も、プラス面とマイナス面もあるが、柔軟性をもって空間づくりをしてほしい。

(委員)

中高生が本を読まないのは深刻な状況になっている。

若者向けな感じの書籍構成があつたらいいと思う。

最近の年配の方は気持ちが若いので、ファッショナブルな傾向を取り入れた図書館を作れば、年配の年齢層も惹かれて図書館に行くのではないかな。

本の冊数も多くないので、分類も難しくせず図書館のテーマを絞った方がいい。

(委員)

若い年代が利用すれば、新しい風が吹き活気がでる。

県立図書館でもなく公民館図書館でもなく、まちなか図書館の付加価値は何なのかを考える必要がある。若い世代、ビジネス層、プラスαの図書館。

(委員)

例えば、テーマを設定した書架を作るとか。マンネリ化しないようにドキドキさせるような仕掛けをしてほしい。

(委員)

それは今も企画展示で行っているし、まちなか図書館も企画で取り組めばいいと思う。

(委員)

学校図書館も読書活動の推進のため、司書さんがいろいろ努力しているが、本はなかなか借りられない現状がある。積極的に購入したい分野ではないが、ライトノベルを入れればそれだけが人気が出て借りられた。

(委員)

建物がきれいで新しいということは、それだけで人は集まると思う。あとは、雰囲気と蔵書構成が重要。マルヤガーデンズなども、いろいろ本に関する企画を行っている。

(会長)

どれくらい人がくるのか、どのターゲットにしたら人が集まるのか、分からないのが本音である。

新しい取組みも多く、当初はうまくいかないケースも出てくると思うが、柔軟に対応できるような運営体制が必要である。

(委員)

宿泊施設があるのでビジネスマンも利用するかも。

図書費にもよるが、思い切って本を半年で入れ替えるとか。

選書もバランス良くというよりは、ニーズを把握して他とは違うものを特化して揃えることも必要ではないか。

(委員)

自分の学校の司書はまちなか図書館のことを知らなかった。まちなか図書館をまだ知らない人がいるので、より広報してほしい。

(事務局)

今後については、再開発組合とも協力して一緒に広報していくように依頼したい。

(委員)

団塊の世代も当然利用されると思うが、やはりターゲットは若者層と思う。活気がある雰囲気、もう一度タカプラのような待ち合わせの場所にできればと願っている。

YA（ヤングアダルト）の選書に若者の意見を取り入れるのもよいと思う。